

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

氏名 布花原 明子	職名 教授	学位 看護学(修士)
-----------	-------	------------

研究分野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学教育(授業及び実習方法) 保健師のキャリア形成 地域組織活動

研究課題
公衆衛生看護学に関して、住民主体の組織活動を中心にして考察する。地域の健康課題の解決をめざす組織活動のあり方や、その発展要因との関連、支援課題についても考察する。 保健師の専門職育成に関して、公衆衛生看護学教育およびキャリア形成の双方から、考察する。

担当授業科目
<p><2年次> 公衆衛生看護技術論</p> <p><3年次> 地区活動論</p> <p><4年次> 地区活動論演習 公衆衛生看護技術演習 看護総合演習 公衆衛生看護学実習 看護総合実習</p>

授業を行う上で工夫した事項(※ 助教については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)

授業科目名【公衆衛生看護技術論】
2年生後期保健師必修・看護師選択科目である。初回に授業への要望を聞き、参加型学習を取り入れて、授業を展開するよう工夫した。各回の授業の中では、基本的事例を提示し、個人で思考する時間→小グループで議論する時間→全体で意見共有し、最後に教員からの補足説明を加える方法である。学生の思考を促し、コミュニケーション力を促進できるよう配慮した。その結果、授業の質評価に関して、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」では、平均値4.1、中央値5.0とこれまでで最も高かった。

授業科目名【地区活動論】
保健師課程3年生前期の必修科目である。アクティブラーニング教室を使用して授業を行っている。毎年、学生からの好評を得ている地域のフィールドワークを行って地域の生活環境と健康を5感で考える機会を設けた。フィールドワークのポスター発表では、口頭での意見交換では発表者が限定されがちであるため、全員がコメントをホワイトボードに書き込み、参加意欲を高める工夫をした。学生からは、現場での実際の保健師活動について、もっと知りたいとの要望があり、次年度は外部講師の検討を行う。

授業科目名【公衆衛生看護技術演習】
保健師課程4年生前期の必修科目であり、公衆衛生看護学実習に備える看護技術の習得を目指している。新生児家庭訪問と、実習地域で実施する健康教育の演習を行い、準備する。いずれの技術も、各自、できていない点とできていない不足点に気づき、実習に向けて自己の課題を明確化することをゴールにしている。
学生は看護師課程の臨床看護学実習を終えている。従って、紙面上で家庭問診画は大方できる。しかし、援助項目を、家庭訪問のロールプレイ場面で、対象者に応じて、どのように提供していくのかという点が課題である。ロールプレイ場面を、スマートフォンで撮影し、見直す時間をとり、不足している知識や技術に気づけるよう、また実習までの備えを自覚できるよう工夫した。

授業科目名【看護総合演習】

最終評価となるレポートでは、文献を活用して看護総合実習で計画した看護技術に関する文献を引用して考察を行い、各自レポート作成を行うことができた。また、演習への参加態度も良好であった。授業評価結果より、平均値は改善、それ以外は維持していた。学生が習得したと回答した項目では、「新たな知識の獲得」「事象を理解する視点や考え方の習得」「課題の検討力」に比べ、「専門分野で必要となる技術力」が低かった。次年度は、保健指導技術・企業就業者集団のアセスメント技術などの習得を強める必要がある。

授業科目名【地区活動論演習】

保健師課程4年生前期の必修科目であり、6実習施設の地域診断を行う。4月から6月上旬公衆衛生看護学実習開始前までに集中講義形式で実施した。毎回、事前学習として既存資料からの統計情報の収集及び分析が必要になるため、連続授業は避けてほぼ隔日で時間割を作成し、自己学習時間を確保できるよう配慮した。

また、シラバスをベースに、演習の進め方のガイドブックや統計データのアクセス方法の資料等を配布し、学生が効率的に情報を収集できる方法を提示するなどの工夫を行った。教員間では随時グループの進捗状況を共有し、全体講義が必要な内容は随時説明して、全体の習得状況を調整できるよう配慮した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本公衆衛生学会	一般会員	1994年4月～現在に至る
日本看護科学学会	〃	2001年3月～ 〃
日本地域看護学会	〃	2001年4月～ 〃
日本看護教育学学会	〃	2003年4月～ 〃
日本公衆衛生看護学会	〃	2014年4月～ 〃

2017年度 研 究 業 績 等 に 関 する 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(学会)			第7回 日本公衆衛生看護学 会学術集会	座長

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

--	--	--	--

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市保健所運営協議会	委員	2009年4月～現在に至る
日本私立看護系大学協議会	広報委員	2017年4月～現在に至る
認定看護管理者教育課程ファースト レベル	講師	2012年4月～現在に至る
北九州市介護保険認定審査会	審査委員	2017年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
<p>1. 学生募集委員会</p> <p>1) 高校模擬授業および進路ガイダンス（県立若松高校・県立直方高校西南女学院中高・美萩野女子高校）にて実施した。また、学生募集委員での対応が難しい日時については、学科内教員への依頼を行い、できるだけ多くの高校へ出向くことができるようにした。</p> <p>2) 看護学科オープンキャンパスの企画、担当教員との調整及び当日の運営を行った。</p> <p>3) 入試説明会をはじめ、学生募集に係る本学のPR（パンフレット等）などを作成した。</p> <p>4) 在校生の高校訪問の依頼学生の選抜を行い、訪問前後の準備を整えた。</p> <p>2. 3年生アドバイザー</p> <p>アドバイザー責任者として、年間のアドバイザー活動方針を示し、4名のアドバイザー体制のもと計画された支援計画に沿って、全て実施することができた。</p> <p>1) 個別面談</p> <p>新年度に個別面談を行い、その後は、必要な学生に、個別面談を実施した。成績不良者や、臨床看護学実習の履修に問題が生じる場合など、個別対応が必要な場合には、学科長や実習指導者と連携しながら、随時、面談を実施した。</p> <p>2) 保護者懇談会について</p> <p>今年度、新たに、キャリア支援を重視した保護者懇談会を実施した。2年生保護者との合同懇談会も初めての試みであった。就活に関する情報企業からの講演「病院から選ばれる人になるために」をテーマに、求人・就活の傾向と対策について、保護者への情報提供の機会を提供し、好評であった。</p>

3) 学習ポートフォリオファイル作成指導

2年次から3年次にかけて、正規科目以外での学習内容（模試結果及びやり直しノート・臨床看護学実習の課題学習など）を、各自が学習ポートフォリオとしてファイルづくりを行うよう指導した。そのファイルが、3年アドバイザー支援が終了した後に、4年次の国家試験対策として活かされるよう、新年度の国家試験対策委員に引き継いだ。

4) 業者模試の実施（2月3月）

3. 保健師国家試験対策

保健師課程学生を対象に、8月～2月にかけて、業者模試、結果分析に基づく対策の検討を行った。今年度は、学生との企画会議をもち、学生の主体的な保健師国家試験体制を整えるよう工夫した。業者模擬試験の実施、結果分析に基づく補講を計画した。疫学保健統計など、基礎科目補講の調整と、公衆衛生看護学の補講を実施した（補講は全18コマ）。結果は、15名受験者数のうち、14名合格・1名不合格。

学部長による評価・改善記入欄（助手については、学科長による評価・改善記入欄）

※この欄は、一切公表いたしません

1. 教育活動について

2. 研究活動について

3. その他